

スポーツ科学・医学大事典(全3巻)

① スポーツ整形外科学 ―理論と実践―

ギャレット, スピーア, カーケンダル(編), 福林 徹, 渡邊好博(監訳)

② スポーツ運動科学 ―バイオメカニクスと生理学―

ギャレット, カーケンダル(編), 宮永 豊(総監訳), 阿江通良, 河野一郎, 高松 薫, 徳山薫平(監訳)

③ スポーツ医学プライマリケア ―理論と実践―

ギャレット, カーケンダル, スクウィアー(編), 宮永 豊(総監訳), 赤間高雄, 宮川俊平, 向井直樹(監訳)

守屋秀繁

(千葉大学名誉教授, 鹿島労災病院院長)

この大事典は今回出版された「スポーツ整形外科学」, 「スポーツ運動科学」, 「スポーツ医学プライマリケア」の厚い3冊から構成されており, 以前私が監訳した「スポーツリハビリテーション」(西村書店・刊, 本体7,600円+税)を加えると4部作とも言えるかもしれません。どれも現在, 流行の絵や図の多い本と違って, 字が非常に多く, 勉強嫌いなスポーツ愛好者には絶対に好かれない本だろうというのが私の第一印象でした。私も今回, 書評を依頼されたので仕方なく目を通していたら, いつの間にか引き込まれるように読み続けていました。そうです。これらの本はスポーツを題材に生業をなしている人達, 特にスポーツの講義や講演をしなければならない人達が一部はスポーツ雑学

として知っていたほうが良いような内容があちこちに記載されているのです。

「スポーツ整形外科学」では第I部に身体各所の基礎的な知見が, 骨格筋, 腱, 靱帯, 関節軟骨, 骨などに分けられスポーツドクターとして知っていたほうが良いことが整理されて述べられており, さらにコンパートメント症候群, MRI, 統計学が述べられており, 学問としてスポーツ整形外科をする人にとっては大変有用な記述となっています。II部以降は身体を部位別に述べてあり, II部は体幹と頭蓋・脊椎, III部は上肢, IV部は下肢となっており, この手の教科書に有りがちな膝, 特にACLの記載ばかり多いということはなく, スポーツ障害・外傷全般にわたり広く述べられているのは, 読者にとって大変有難いことです。しかも, ACL損傷を除いて, その他のほとんどの部位の障害・損傷について, その治療法, 特に術式についても詳細に述べられているのは大変参考になると思われます。

どちらにしろ「スポーツ整形外科学」, 「スポーツ運動科学」, 「スポーツ医学プライマリケア」の3冊はスポーツドクター, スポーツトレーナー, 体育学部の教官, 学生に大変役に立つ書物であると思います。

●① B5判・940頁/18,900円(本体18,000円+税)

② B5判・984頁/18,900円(本体18,000円+税)

③ B5判・656頁/14,700円(本体14,000円+税)

2010年9月 西村書店・刊